

# 大学と地域貢献の促進

## ～地域づくりへの学生参加教育プロジェクトを中心に～

大宮 登

(高崎経済大学地域政策学部長)

### 地域政策学部の理念と地域活性化への貢献

本学の地域政策学部は地方分権時代の中で、「個性豊かな地域づくりを担うリーダーの養成」を理念として、平成八年度に日本で初めて開設された。その後、平成一二年には大学院地域政策研究科修士課程、平成一四年には地域政策研究科博士後期課程、平成一五年には地域政策学科の改編と地域づくり学科の新設が行われ、平成一八年には観光政策学科を増設しようと準備中である。この一〇年間、地域政策や地域づくりに関する、全国でも独自の教育課程を持つ学部として歩んでいる。それゆえ、「大学と地域貢

献の促進」は地域政策学部の教育理念・教育目標そのものであり、地域政策学部の研究・教育の全てが、地域リーダー育成を含めて地域活性化に貢献することに向けられている。

そうした、学部理念や教育目標のもとで、開学部以来、様々な研究、教育、社会貢献活動が展開されてきた。その成果は、平成一五年度「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)の地域・社会との連携分野における採択校としての評価を受け、また、平成一六年には「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)の地域活性化の分野で採択された。

こうした実績が、国や都道府県、市町村など行政から地

域活性化に関する数多くの調査研究等の依頼を受ける結果となっている。

### 全国に発信した「たかさき活性化本舗」

本稿では、地域政策学部が推進する数多くの地域貢献の取組の中から、現代GPに採択された「地域づくりへの学生参加教育プロジェクト」の二つの取組について紹介しよう。それは、高崎経済大学付属地域政策研究センターの支援を受けて、地域政策学部の教員と学生が中心となって、平成一一年度から継続的に取り組んできた中心市街地活性化をめざす「たかさき活性化本舗」事業と、高崎にあるコミュニティ放送局で実践してきた「ラジオゼミナール＆ラジコム」事業である。

まず、「たかさき活性化本舗」事業は、平成一一年、高崎市が「中心市街地活性化基本計画」を策定するにあたり、地域政策学部によるまちづくり団体「たかさき活性化本舗」が組織され、学生の視点から中心市街地の活性化に対して、調査・研究・提言を行うために開始された事業である。

中心市街地の衰退を「まちが病んでいる」とみなし、ま

ちを元気にする薬、すなわち活性化となることを目指して、この名前がつけられた。まちづくりの前進基地ということ、中心市街地の空き店舗に事務所を構え、来街者、商店、住民などの意見交換を行い、情報収集するとともに、調査結果やまちづくりイベントなどの情報を発信している。

### 「たかさき活性化本舗」の主な活動内容

これまでの主な取組を紹介するが、学生が主体となって中心市街地を活性化しようとするこの事業は、今でこそ、当たり前になった感があるが、開始時期は全国のトップを切っており、全国関係者の関心を集めてきた。昨年実施した高崎市の行政、市民、企業に対するアンケート調査結果でも、この活動に対する認知度は高い。過去六年間の流れは以下の通りである。

#### ①平成一一年度 Part I

- ・西一条通り商店街の空店舗に創業(九九・六・二)
- ・高崎市中心市街地活性化基本計画策定への協力(アンケート及びヒアリング調査・提言)
- ・高崎まつり参加(九九・八・七)

- ・人情市参加(九九・二〇・一〇)
- ・活性化だより(広報誌)第一  
五号
- ・グラフたかさき取材(市長と  
対談)
- ・活動スタッフ…二六名

②平成二二年度…Part II  
活動テーマ…「歩くまち」

- ・活動スタッフ…二三名(写真1)

③平成一三年度…Part III 活動テーマ…「住民と一緒  
に楽しむまちづくり」

- ・活性化大作戦 in 高崎…市長や市民を交え、タウンウォッチ  
チング、パネルディスカッション等を実施(写真2)
- ・活動スタッフ…一三名

④平成一四年度…Part IV 活動テーマ…「本舗からT  
MOくたかさき・みんなでおもてなし」

- ・第四回闊市への参加(写真3)
- ・活動スタッフ…一三名

⑤平成一五年度…Part V 活動テーマ…「ほかほか高  
崎発信中!!」

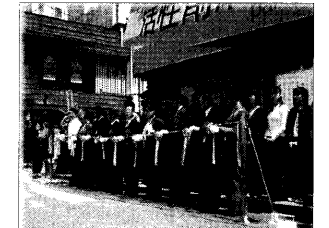


写真1 Part II 事務所移転



写真2 Part III 事務所移転



写真3 Part IV 第4回闊市もちつき

- ・活動スタッフ…一三名

⑥平成一六年度…Part VI 活動テーマ…「熱い高崎!  
本舗が活性源」

- ・街角マップや報告書を作成。

・活動スタッフ…三三名(十約二〇〇名の三年次ゼミ生+  
a)

このように毎年独自のテーマを掲げ、活動を展開してき  
た本事業も、六年間の実施課程の中で、以下のような課題  
が見えてきた。

①指導者の交代。

②「全国的な知名度」と実際の成果との格差。

③学生を呼ぶ道具・集客システムとしての一定の成果を得  
たものの、中心市街地活性化の本体である地域住民自身  
との連携・協働の工夫が求められていること。

こうした課題を踏まえて、これまでの活性化本舗事業を  
リニューアルし、学部全体として関与できる体制を整え、  
より独自性と新規性を有した取組とする工夫が必要となっ  
ている。このために、平成一六年度事業からは全てのゼミ  
が参加する新たな試みを模索し始めている。

#### 継続するラジオゼミナール&ラジコム活動

#### 特集・大学の地域貢献の促進

平成一一年度から継続的に実施してきた地域活性化事  
業に、「ラジオゼミナール&ラジコム」事業がある。これ  
は、ラジオ高崎というコミュニティ放送を軸とした地域  
づくり支援を目的とする事業である。大学教員等による  
「ラジオゼミナール」を毎週一五分間放送し、同時にまた、  
学生自主企画による地域づくりに関する放送「ラジコム」  
を毎週三〇分放送している。それらの活動を通じて、地  
域づくりに関する知識や知恵を共有化し、地域リーダー

を育成し、地域づくりを生涯学習の視点から積極的に支  
援する。

「ラジオゼミナール」では地域づくりの専門的な知見を有  
する大学教員が、ラジオ放送を通じて地域づくり活動を支  
援し、市民間コミュニケーションの円滑化と地域リーダー  
育成をめざす。また、「ラジコム」では学生自身が地域づ  
くりを調査し、地域活性化の事業に参加し、地域づくりの  
新鮮な視点をまとめ、三〇分間の放送シナリオを作成し、  
公共の放送を通じて、社会貢献の意義を学習する。ラジコ  
ムというネーミングは、ラジオ放送を軸としたコミュニテ  
ィとコミュニケーションの活性化をめざして学生自身が考  
えたものである。

#### 教員による「ラジオゼミナール」の主な活動内容

教員がボランティアで研究内容を継続的に放送してきた  
「ラジオゼミナール」も特筆すべき内容だが、学生が主体  
となった「ラジコム」放送も全国的にも稀なケースとして  
注目を集めている。こうした活動は平成一一年から開始さ  
れ、平成一五年度は、「文部科学省生涯学習まちづくり支

援モデル事業」の一つとして認定された。

教員の地域貢献活動である「ラジオゼミナール」は市民リスナーも定着し、毎週一分の放送を楽しみにしているという声もよく聞くようになった。これも七年目に入った継続的な実践と放送内容の質的な高さの結果といえる。

平成一一年度から一四年度までは、高崎経済大学の教員だけで実施してきたが、平成一五年度からは公立大学連携の一環として、群馬県立女子大学と前橋工科大学の先生方にも登場してもらっている。内容もますます充実し、すっかり市民の学習の場として、地域づくり活動のアイデア獲得の時間として定着してきている。

学生によるラジオコム「radi-com」活動

学生の自主企画放送である「ラジオコム「radi-com」」も平成一一年度から開始されている。毎年、放送時間、放送内容、放送スタッフに工夫改善をこらしながら、実施しており、平成一六年度からは、一か月に二回、三〇分の放送を実施している（写真4）。前橋工科大学と県立女子大

学の学生とも連携しており、結果的には学生自主企画放送が毎週実施されている。学生たちはその活動を通して、

①聴く側から話す側へ立場が変わり、より自覚的に情報の発信ができる

②公共的な放送を通じて、表現能力が高まる

③市民のコミュニケーション能力向上に寄与し、コミュニティ内のネットワーク活性化を促す

④取材を通じて多くの人と出会い、また、まちづくりの現状に触れることができる

など、多くのことを学んでいる。

新たな展開：「地域づくりへの学生参加教育プロジェクト」事業として

このように過去六年間、日本の最新事例として、先駆的に実践してきた「たかさき活性剤本舗」事業と「ラジオゼ



写真4 ラジオコム「radi-com」活動

ミナール&ラジオコム」事業の独自性を継承し、課題を整理し、新展開を図るために、平成一六年度から「地域づくりへの学生参加教育プロジェクト」事業を開始した。学生の参画を学部全体に広げるように、ゼミ公開のシンポジウムやワークショップを新たに企画し、更なる展開を図っている。

前述したように、活性剤本舗事業は先駆的事业であるがために、ややもすると一部の学生が中心になって実施せざるを得なかった傾向があった。平成一六年度から、地域政策学部全部の教員・学生・市民が一体となって参画できる環境を整え、「地域づくりへの学生参加教育プロジェクト」事業として再出発した。具体的には、中心市街地に開設した「大学と地域の交流館」を「たかさき活性剤本舗」事業と「ラジオゼミナール&ラジオコム」事業の活動拠点とし、学部の教員と学生がそれぞれの研究・教育テーマに従い、まちなか再生調査、タウンウォッチング、教材開発、ゼミ公開ワークショップ&シンポジウム開催、コミュニティ放送への出演、地域活性化事業報告書の作成などの活動を積極的に展開しようとしている。

新たな展開：「大学と地域の交流館」を拠点として

そうした基本方針の下で、平成一六年度年度の「地域づくりへの学生参加教育プロジェクト」事業は、以下の事業を行ってきた。

- ①「たかさき活性剤本舗」事業
- ②まちなか再生調査
- ③タウンウォッチングの実施
- ④ゼミ公開ワークショップの開催：各ゼミが中心市街地にある「大学と地域の交流館」を拠点に学外でワークショップを開催
- ⑤ゼミ公開シンポジウムの開催：各ゼミが企画し、「大学と地域の交流館」を拠点に公開シンポジウムを実施
- ⑥教材の開発：ワークショップ教材、タウンウォッチング教材などの開発
- ⑦イベント参加：高崎の各種イベントへの随時参加
- ⑧情報誌の発行：ミニコミ誌などの発行
- ⑨先進地視察と報告会の実施

⑨ 報告書の作成・過去五年間の活動をまとめた「活性剤本舗報告書」を作成

(二)「ラジオゼミナール＆ラジコム」事業

① ラジオゼミナールの実施・毎週一五分放送(写真5)

② ラジコムの実施・毎週三〇分放送

③ シンポジウムの開催・まちづくり市民講座「市民が創るまち高崎Part II」の実施

④ イベント参加

⑤ 先進地視察と報告会の実施

⑥ 報告書の作成

学生や他大学への波及効果

この取組は、空き店舗の活用、コミュニティ放送の活用、地域連携の仕方など、工夫さえすればどの大学でも取り組



写真5 ラジオゼミナール

むことができる活動であり、①学生が主体となつて「中心市街地や地域の人々を元気にする」事業であること、②地域の活動団体と積極的に協働を行っている事業であること、③学内の教育・研究と学外の社会貢献活動が一体となつて作動する教育プログラムであることなどに特徴があつた。

さらに、大学が地域との交流館を中心市街地に設置し、教育・研究と地域貢献が一体となつて実現するプログラムの開発は、成果を出すまでには至つておらず、まだまだ課題は多いのだが、こうした試み自体、他大学への波及効果は大きいと思われる。

地域活性化は、「人づくり」からはじまるのであり、地域づくりを担う地域リーダーを組織的に、継続的に輩出していく環境づくりが大切である。元気な地域には必ず、魅力的な地域リーダーがいる。キーパーソンとも言ふべき人が存在する。こうした地域リーダーをどのように育成するかが鍵となる。ここで紹介した取組は、学生が地域づくり活動に関わり、社会的な経験を積み、地域経営の実践力と共に、コミュニケーション能力や人間関係形成能力を養い、大きく成長するプログラムである。

こうした地域づくり活動の積み上げこそが、若者たちの地域アイデンティティ(愛着心)を育て、真の意味での豊かな社会を創出していく基盤を形成するのだと思われ。

学生ラジコムの感想

最後に、ラジコム活動について学生に感想を述べてもらった。

「ラジコムという番組制作をしている中で、まだ試行錯誤の連続であるが、たくさんさんの経験をj得ている。例えば私たちは、『高崎街発見隊』というコーナーを番組内に設けている。これは高崎周辺地域のお店や場所、団体を取材して流すコーナーであるが、自分達のj足で取材源を探し、取材してjくるという体験はとても意義深い。様々な世代の地元の人とj渉して話を直にj聞くのは普段の学生生活の中にはない機会であるし、地域づくりを学ぶ学生として、このように地域の人とj流できる貴重な機会でもある。今後、公共の電波で番組を流しているという緊張感を忘れずに番組づくりを行ってjきたい。(地域政策学部三年 牛久保 星子)」

「ラジコムを通して普通では経験できない貴重な体験をしている。原稿を作成することや、収録を行う中で、特に話し方やj聞く力について考えさせられる。ラジオを通してリスナーに情報を伝えるというjことは想像以上に難しい。お互いの表情が見えないので、表現力が必要だと最近強く実感している。情報が多く、伝える事に一生懸命になりすぎると、リスナーのことを忘れがちになつてしまふ事もある。常にラジオの向こう側の人の存在を忘れずに、j楽しめる放送を行ってjきたい。(地域政策学部三年 鈴木麻梨香)」

「私は、radi-comで様々なヒトと繋がるというjことを感jしている。多くの取材を通してのヒトとのj出会い、radi-com収録を通じてのヒトとのj出会い、リスナーとの繋がりなど、制作を通してヒトとヒトのj出会いや繋がりが生まれる。radi-comの時間をリスナーと共有することで、高崎の周辺地域に住むリスナーに高崎の街について考えてもらいたいと思jている。これからもradi-comを通して、たくさん人のヒトと繋がりてjきたい。(地域政策学部三年 岡本 光人)」